

学びの音

城下小学校 校長室だより
令和4年12月27日

心を開き合う

おはようございます。こんにちは。ありがとう。ごめんなさい…

皆さんの中にも、今日既に、たくさんの人と、これらの言葉を交わした人がいるかと思いますが、そうです、挨拶です。「挨拶をしましょう」「挨拶は大切です」「挨拶は…」等と、挨拶の大切さや必要性を求める声を聴くことがあるかと思いますが、そもそも挨拶はなぜ大切なのでしょうか。

「挨拶」とは、もともとは仏教に係るもので、修行者が互いの修行の成果を質問し合うことによって、悟りや知識見識等の深さ浅さを確認する行為でした。そこから民間へと広がり、人と会った時に取り交わす儀礼的な動作や言葉・応対などを言うようになったと言われていいます。

挨拶は「自分が相手に対して心を開いていますよ」という表現であります。そしてお互いに心を開き合うことで、互いの考えや思いを確認し合うことができると思います。決して一方的なものではなく、呼応によって成立するものではないでしょうか。

「おはようございます」に対して「おはようございます」。「こんにちは」に対して「こんにちは」お互いに心を開き合えた時は、挨拶をした方もされた方もうれしいですね。

相手の心を開かせるのではなく、まずは自分の心が開いていることを示すのが、心が通い合える第一歩であると思います。

また、出会いや別れの際に挨拶を交わす他にも、「ありがとう」「お世話になっています」等と、相手に気持ちを伝えることがあります。

「ありがとう」という挨拶は「有難い」を語源としています。「有難い」とは、言葉の通り、有ることが難しいという意味であります。それが実現できた時の感謝の言葉…これが「ありがとう」であり、それが今有る（実現できた）のはあなたのおかげといった意味が込められています。

初めて会った人に挨拶することもありますよね。ここには、出会えたことに対する感謝の気持ちも込められています。

出会いの挨拶、感謝の挨拶、謝意の挨拶等など、日頃の生活の中で必要とされる挨拶や大切な挨拶がたくさんあると思います。

挨拶を声に出してみましょう。もちろん相手の目をみて挨拶ができると、もっと心が通じ合うと思いますが、まずは声に出すこと。相手のことを思って心を開きましょう。そして心を開いてくれた相手に心を開きましょう。

年末や年始には誰かと会う機会も多いと思います。心のこもった挨拶ができるといいですね。

